高砂おたから探訪の会承認済み

福室 中野栄 歴史マップ

まちづくり活動助成事業

仙台市東部に位置するこの地区は、かつて純農村地帯でしたが、開発によって昔の面影はなくなりつつあります。特にJR仙石線南側は東北開発の基盤としての仙台新港建設、背後地開発のために大きな変貌をせまられました。この地に暮らした人々の足跡を尋ね、郷土の歴史を振り返ってみませんか？

［福室地区］（ふくむろ）

福室の地名の由来は、フケの地、即ちぶよぶよした状態の湿地帯を意味するフケが転じて「福」となり、「ムロ」は邑（村）が転じたもの。七北田川下流域の左岸は、明治２２年以来の大字名。仙石線陸前高砂駅の北側は福室３～７丁目、南側は福室１～２丁目と高砂１～２丁目となり、七北田川右岸の南福室は福田町となった。東は中野・岡田・白鳥地区と接し、西は七北田川、北は多賀城市高橋・新田地区と隣接している。

［中野栄地区］（なかのさかえ）

中野の地名の由来は、「中の野原」で人の手が入らない土地が「野」で、内側の自然堤防上に住人がいる所をさす。七北田川下流左岸の氾濫原上に位置する。元は水田地帯だったが、宅地化が進行し、仙石線中野栄駅北側の栄１～５丁目と旧宿在家地区と、更に駅南から仙台東部道路までの出花地区がある。東は仙台港、西は福室地区に接し、南は国道４５号線、北は多賀城市高橋に隣接している。

① 鳳赤山西光寺（さいこうじ）福室

聖観音を本尊とする。一説によると慈覚大師により開基され、開山は正平2年（１３４７）霊光和尚であり、そのときから臨済宗に改宗。その後荒廃していたところを享保１０年（1725）瑞巌寺天嶺性空和尚が再興したという。古くは大きな松があり、そこに観音堂（松堂）があったが、明治初年の洪水で流され、その後いく度か不幸な出来事が続き松堂を西光寺に再建した後おさまったという。元の観音像は南福室の住吉神社に漂着、現在はそこで祀られているという。

② 正平親王の墓　福室

西光寺境内にある正平2年(1347)の板碑であるが、正平7年の追刻がある。一説によると南北朝の争乱の渦中福室村近辺で戦死した南朝方の山村親王の遺体を当時の西光寺住職霊光和尚が葬り、板碑を墓石として使ったと言う。民衆の間では平将門の墓と称された。碑面の苔を煎じて飲むと百日咳に効くという伝承もあった。

③ 追分石　福室

現在は西光寺参道脇にあるがもとは深山神社近くに設置されていた道標。右八幡、ななはま、左しほがま、松島と記されている。ななはまは七ヶ浜をさし、八幡は多賀城の八幡神社を指すものと思われる。その道の分岐点に置かれていたであろう。

④ 中埜山誓渡寺（せいどじ）　中野

応永２０年（1413）頃松島円福寺の海翁嶽和尚が開山した臨済宗の寺院。以前は現在地より１ｋｍほど離れた出花（かつての浜在家）にあり、荒廃していたが、享保10年（1725）　瑞巌寺天嶺性空和尚により今の地に再興開山された。山号は中埜は古代の歌枕「本、中、末の松山」のうち中の松山にちなんでいるとされる。

山門は茅葺きで瑞巌寺の旧山門を移築したもの。門前に観世音菩薩宮城三十三札所巡礼御詠歌句碑、蔵王権現などさまざまな碑が並んでいる。

⑤ カサコ地蔵　中野

安永風土記には阿弥陀様として宿在家にありと記され、今の中野中学校の敷地中央あたりの阿弥陀堂に安置されていた。大正の頃、頭部が壊され紛失の状態にあったものを、中野の「カサコ地蔵様」として湿疹治癒の願掛け参りに仙台からも人力車で来る人が多かった。自衛隊送信所建設のため一時愛宕神社（長町地蔵尊）に移されたが、昭和57年寺嶋修二氏により頭部を修復され中野誓渡寺境内に安置された。

⑥ 高見堂　中野栄

安永年代（１７７２）に創建と伝わる。本尊は聖観音。伝承によると天明の飢饉のとき、堂内で餓死する人が多くでたため現在地に移された。天明飢饉餓死者の供養碑がある。また、本尊は子育ての霊験あらたかと言われ近隣の信仰を集め、新嫁が妊娠すれば安産を祈り、観音様のおかげで宿在家には難産がないと言われた。堂内には信仰者の奉納した赤い布の枕がうず高く積み重ねられていたという。宮城三十三観音の13番札所となっている。

⑦ おもわくの池　中野栄

奥羽の豪族安倍貞任が住民の安泰と子孫繁栄を祈願し、池の端に権現様を祭ったというその池が、「おもわくの池」らしい。また、多賀城留ヶ谷に「おもわくの橋」伝説がある。貞任が恋人おもわくに会うため玉川に橋をかけたその橋が「おもわくの橋」。その橋を渡り、おもわくの池に祭られている権現様に願掛けすると子宝に恵まれるという伝説がある。

⑧ 中野神明社　中野栄

慶長年間（1600）のころ宿在家に「伊勢講」があり毎年参拝していたが、参拝できない人のため分霊を祀った。安永風土記に記載があるが、いつしか朽ち果て祠だけになっていたものを 昭和54年、勧請再建した。

⑨ 愛宕神社（あたご）　出花

安永風土記によれば長町地蔵尊とある。本尊は1尺5寸の石仏。現在の境内は 3分の１になったが以前は浜街道沿いにあり大いに賑わった。古老の説によれば出花に大火があり、火伏の神である愛宕神社として崇められるようになったという。敷地内には20基の古碑が集められている。

⑩ 若宮八幡神社　中野栄

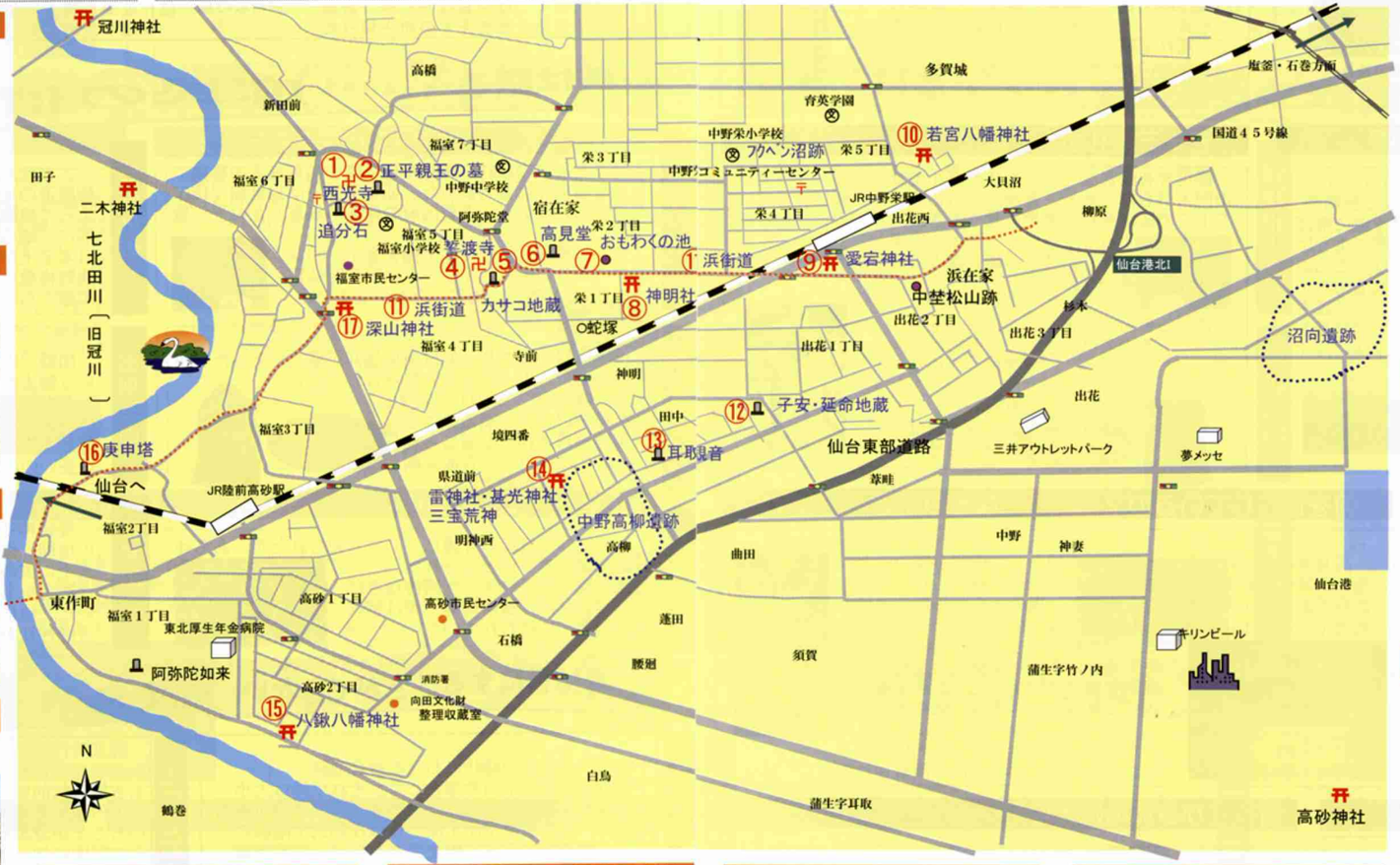
所有者の小泉家の先祖に多賀城八幡宮の禰宜を務めていた人がいたらしいが建立時期などは不明。以前は中野大貝沼にあったが、今は小泉氏の自宅敷地内に移された。

⑪ 浜街道　福室～出花

七ヶ浜で獲った魚を馬の背に積んで仙台城下肴町へ運ぶため馬子たちが往復した街道。夜中はその列で賑やかだったという。当時の浜街道は３ｍ前後の狭い道で、雨が降れば泥道になった。

⑫ 子安・延命地蔵　中野

平成１１年、仙台港背後地土地区画整理のため沼向から住民と共に中野字田中へ移転された。沼向の女講中の碑や子安観音像なども祀られている。古くから沼向の住民に崇拝されており、今に至るという。



⑬ 耳取観音（みみとり）　中野

以前は蒲生字竹の内に天台宗耳取山冷徳寺の竹の内観音とも称され、昔から地域住民が信仰してきた。

平成 3年仙台港背後地土地区画整理により中野字田中の現在地に遷座された。

⑭ 雷神社（らい）　中野

元禄年間の勧請と伝えられる。旧中野村の鎮守。かつては中野雷神にあったものを、仙台港用地のため中野沼向に移され、さらに、仙台港背後地開発のため現在の地に移された。

境内には甚光大明神、三宝荒神も鎮座されている。

⑮ 八鍬八幡神社（やくわはちまん）中野

応神天皇を祭神とし、元禄3年に勧請された。このあたりは七北田川の堤防が決壊しやすく、村民は水害に悩まされた。そこに新しい鍬八丁を埋め、八幡神社を祀り祈願したところ、水害を被ることはなくなったという。

⑯ 庚申塔（こうしん）　福室

庚申信仰のおこりは中国の三尸（さんし）説によると言われている。本来は個人の長寿祈願であるが、地域と密着するにつれ、無病息災・五穀豊穣など信仰も各種にわたった。この庚申塔は板碑（中世の供養塔）再利用したもの。以前は別の場所にあったが、移転するたび多くのたたりを顕したという。「水疣神様」（みずいぼ）としても信仰された。

⑰ 深山神社（しんざん）　福室

祭神は木花佐久夜姫尊。創建の詳細は不明だが、江戸時代、福室の大波氏が宮城郡沢乙村の鈴木氏の氏神・深山権現から分祀した。大正８年の頃、時の高砂村村長花渕源吉翁が北福室地区の鎮守の神とした。社殿は平成 9年に改築したもので、本殿は「流れ造り」という様式で、安産・家内安全の神として崇敬されている。

高砂おたから探訪の会承認済み

福室と中野栄の 歴史ミステリー！？

頭のない地蔵様の理由？

時々頭部の欠損した地蔵様や仏様に出会うことがある。そのほとんどは明治時代の廃仏毀釈（はいぶつきしゃく・神道が国家の宗教とされ、仏教の分離や、仏像の破壊が行われた）のが原因と思われる。また、賭け事などのときに懐に地蔵の頭を入れていると勝つという迷信もあったようだ。いつの頃かある人がカサコ地蔵の首を懐に入れていたにくじにたりそこね、怒って首をどぶ田に捨ててしまった。

誓渡寺のカサコ地蔵

長い間地蔵は首のないままだったが、可愛そうだということから新しい首がつけられ、その地蔵さんは今も誓渡寺に伝わっている。

愛宕神社の首のない地蔵

子供と水遊びした地蔵様のゆくえは？

岡田新浜の照徳寺境内に子育て地蔵堂があり、木造のお地蔵様がまつられているがこれは昔、出花の愛宕神社（長町地蔵堂）の御本尊だったという。ある夏の日、近所の子ども達が地蔵堂の木像の子育て地蔵を持ち出し、小川に浮かべて水泳ぎの相手にしていた。突然雷雨となったため、子供たちはお地蔵さんを川におきざりにして、家に帰ってしまったからさあ大変！　地蔵さんはどんどん小川を流れ下った。それを新浜の人が見つけ拾いあげ、大変ご利益のある子育て地蔵であることを知り、照徳寺の和尚さんのはからいで、境内に小さい堂をつくりまつることになった。それが現在の子育て地蔵だという。それから、この地蔵さんのお祭りの日には必ず雨が降るので、濡れ地蔵と呼ぶようになったといわれる。（ちなみに今の愛宕神社の社には木造の地蔵様の代わりの石の地蔵様がまつられている）

七北田川は何故冠川と呼ばれたの？

七北田川は昔、岩切の今市橋下流から冠川（カムリガワ）と呼ばれていた。それは1189年の文治の役で源頼朝が平泉攻撃に向かう途中、今市橋あたりで冠を風に飛ばされ、川に落としたことからその川を冠川と呼ぶようになったという。岡田にはその冠が止ったというところがあり、屋号に「留冠」（とめかづり）を残す家もある。冠の持ち主は神様とか、坂上田村麻呂だったという説もあり）1670年に仙台藩は運河を大代より蒲生まで延長し七北田川を岩切より福田町を経て蒲生にて太平洋に注ぐよう付替え工事を行った。

三十三番札所って何？

観世音菩薩宮城三十三番札所巡礼御詠歌句碑が、誓渡寺山門入口右側にある。寛政5年（1793）建立。観世音菩薩は三十三の姿に変化し衆生を救うとされ、日本各地にある観音を本尊とする寺院を三十三箇所、霊場として決め、札所巡りが流行った。白装束の観音講の人たちが大勢この地域を訪れたに違いない。

「にごる世もすむ世もここにまつ堂の
　　その名は広きみやぎ野のはら」
　　福室村　　松堂

「父母の恩をばここに高見堂
　　いつほうすべき露の身なれば」
　　中野村　高見堂

出花はお化けが出たところ？？？

江戸時代、浜在家（今の出花）に誓渡寺があったが、寺が宿在家に移った後は大変荒れはてた。　当時七ヶ浜街道をとおり、魚を仙台まで運ぶのにそのあたりを通るのは真夜中であったが毎晩化け物が出たという。誰言うことなくそのあたりを化け物が出るところ、すなわち出化（イデカ）と呼ぶようになった。その後化け物も出なくなり、字を出花に変えたという話。

何を現わしているの？　なぞの絵馬

高見堂観世音はもともと子育ての神として信仰が厚かった。堂の内陣には珍しい間引きをいさめる絵馬が納められている。顔料の剥落により不鮮明ではあるが、鬼のような母親の表情と乳児そして左上には嘆き悲しむ観音像が描かれているのがわかる。（これと同じ図柄の絵馬が南三陸町大雄寺にある）高見堂の天明の大飢饉供養塔が示すように、この地域も大凶作に見舞われ、多数の餓死者を出した。やむを得ない口減らしが行われていたのだろう。本尊には胎内仏が入っており、寅年のお祭りにご開帳される。

花渕源吉翁って誰？

高砂村九代村長。田子の生まれ。原野の開墾や蒲生の養魚場設置など村の財政の基礎を作る。その後も高砂郵便局長など多くの役職につきながら、農事改良、耕地整理や灌漑事業、陸前高砂駅の誘致などに貢献した。その功績をたたえる碑が高砂駅前JA高砂支部西側にある。

雷神社から狐の嫁入り？

雷神社が中野雷神にあった昭和初期頃、当時、少女が夜半用をたしに外便所に行くと遠くの雷神社から長浜の松林に向かって、いくつもの狐火がてんでんと動いて行くのが見えた。それが何夜も見えたので怖かったという。
長浜には高砂神社（現在は蒲生に鎮座）があって、そこの砂浜では夜中に疫病で亡くなった人を火葬にしたそうな。少女が見た狐火の行列は、実は雷神社に安置した遺骸を夜中に運ぶ人達の松明の灯りだったらしいという話。

地元に伝わるお話

フクベン沼の牛

お枡取の話

お枡取の墓

港人たしい不しををし内へで
台の建々。みも正て役たい農枡あ江
港設がこ、かに、人た一民にっ戸
人にたのそなご計にい人のてた時
たい十へ伴えうのわま量見たの心米。代
不月移いなわ遺ずかをらとお配の蒲、
し十転県かさ体、し通れこ枡は量生蒲
た日すにっはを打た過たろ取並をの生
港のる買た領中ちとさ。、が大計米は
人命こ収と内野首しせつ底い抵る蔵仙
たい日とさい一字のててまにたで人で北
しににれ円谷刑捉いり張。は〜の地
不はて。に地とえた上つ検なの一方
し広おり、し広中ならのげて査か検倹よ
し祭、谷かまにつれで底いもつ査正り
し墓墓地しり手た、あでた終たが味の
し中がも中、、厚。付る米薄り。終五年
し営同のこ墓く農近がの板、そわ斗貫
し年ま時人の参葬民農、量が何こるの米
し人れに々地りりた民米を落気にまおの
し人て移ももを弔ちのの少ちな心で枡集
し人いさ東仙すつは命量なたくや、取積
し人れ仙台る　悲乞をくの枡さ領り地

も地学のだ引じたげね牛にクんに棒
非帯校家。つい牛のてを牛べでつは終
常でのにす張さがた、引がシいれ牛戦
に、あ帰るりんもめ逃き入沼つてを直
大田たっとあはが田げ上っへた行多後
変ムりて牛げ近いん帰げて水。こ貫、
だぼといはて所てぼっよし路とう城福
っもも ちす、のいへてうまがことの室
たドいたっそ人る行しとっ崩ろ、高の
とブいとくりをでつましたれが真崎あ
い田、いとに呼はてつた。て、夜山る
うと中う立乗んあみたが泥ひ西へ家
当い野。ちせでりる。、棒よ谷に屠か
時わ栄フ上よきまとあ朝はう地田殺ら
のれ一クがうてせ、るま稲たまん場牛
状る帯べりや、ん泥おでをんでぼがが
況湿はン、くロかにじ牛田型来道あ盗
を田も沼と農丨！首いをんにたをつま
伝でとはこ道プ　まさ引ぼなとまたれ
え、も中とまでそでんきにっこっらた
る農と野こで牛こつが上入たろすし。
話作低栄自運をでか稲げれ沼、ぐい牛
。業湿小分ん　おっ上かて〜フ進〜泥

石碑は語る・・・庶民の信仰

普段見過している路傍の石碑にもいろいろな意味があります。

板碑

仏教に基づく中世の供養塔の一種。関東武士団を中心に始まったといわれ、鎌倉時代以降、関東武士の移動にともない東北にも広まった。仙台平野では14世紀でほぼ造立がおわったが、多賀国府の機能が終息したのと一致する。
梵字（種子）＝一文字で佛を表す。バン、ア（大日如来）、キリーク（阿弥陀仏）の３種が多い。梵字のみも少なくない。

熊野権現

古来熊野は、人々の信仰の篤い聖地であり、修験道の地であった。熊野参拝は修験者によって組織され、熊野三山に導かれた。
俗に「蟻の熊野詣で」と呼ばれるほど、日本全土からの参拝者で賑わった。
熊野権現は全国に勧請され各地に熊野神社が建てられた。

庚申塔

庚申信仰のなごり。昔は庚申信仰が盛んであった。庚（かのえ）と申（さる）の組み合わさる日が年に6回あり、この日は寝ずに仏を拝み、念仏を唱えることで災いから逃れると信じられた。石には庚申とか青面金剛像、サルなどが刻まれる。

出羽三山

出羽三山（月山、湯殿山、羽黒山）開山千四百余年という類まれな長い歴史と伝統をもつ霊験あらたかな信仰の山であり、このあたりでも三山講があった。くじで代参者を決め　一組15〜２０人で白装束で出かけた。「湯殿山」の碑が多いのは奥の院とされているためと思われる。

馬頭観音

民間信仰では馬の守護仏としても祀られたが、あらゆる畜生類を救う仏ともされた。
近世以降は馬が急死した路傍などにも立てられた。農耕馬等、馬は家族同様に大切に扱われていた。

愛宕山

愛宕神社（京都）から発祥した火防の神に対する神道の信仰。修験者により江戸時代中頃より日本全土に広められた。古来より火事は甚大な被害をもたらすものとして恐れられていた。他に火伏せの神として秋葉大権現古峰神社がある。

今は目にすることができない 遺跡

開発に伴い発見され、また調査が終了した後埋め戻され、今は目にすることができない貴重な遺跡があります。

中野高柳遺跡

平安時代から江戸時代にわたる複合遺跡。
平安時代前半は水田や畑として、それ以降は大小さまざまな屋敷が作られた。地層からは自然災害の実態が、また遺構や出土品からは在郷武士階級の生活の様子が伺える。出土品としては、国産陶器中国産磁器、下駄、曲げ物、鞍などの木製品、小刀など多数。特に出土した「かわらけ」は12世紀に東北地方を支配した奥州藤原氏が京都の儀礼とともに取り入れたものに形や白色の色合いが似ており、奥州藤原氏と関わりの深い有力者がこの地に住んでいたと考えられ、北方約 4km付近に想定される陸奥国府との関わりも考えられる。
（写真提供：仙台市文化財課）

沼向遺跡

縄文時代後期から江戸時代にわたる複合遺跡。古墳時代前期から平安時代初頭、江戸時代には集落が営まれており、なかでも古墳時代前期には竪穴住居などで構成される居住域と、方墳・円墳・方形周溝墓で構成される墓域が１００ｍほど離れていることが分かった。また江戸時代の屋敷跡とその周囲に畑、水田跡が見つかった。

福室市民センター主催「歴史・地域探訪」講座に参加したメンバーで福室・中野栄の歴史を中心にしたマップを作成しました。
多くの方々に自分たちの住む地域の歴史、先人たちの生活・信仰などに関心を持っていただきたいと編集しました。作成にあたり、「高砂の歴史」（寺嶋修二氏著）、「高砂をあるく」（高砂市民センター編）「地元を語る、昔のこと・開発への思い」（中野の今昔を記録する会編）等を参考にさせていただきました。
編集：「高砂おたから探訪の会」

発行：平成２１年　１２月

編集後記